

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800064		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	馬瀬グループホームいきいき		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬惣島1518番地		
自己評価作成日	令和7年8月11日	評価結果市町村受理日	令和7年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800064-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな地にて、その人らしさの継続を当施設でも送っていただけるよう、個別ケアに力を入れ、地域性に根差した食事の提供等も行ってます。また、当施設の個性でもある併設の歯科を活用し口腔ケアにも医師・歯科衛生士と共に取り組んでいます。また、特定技能外国人も積極的に受け入れ、現在は利用者様からも信頼され、介護の現場で活躍出来ています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、山に囲まれた自然豊かな地にある。併設する歯科診療所では、地域住民の診療も行っており、待合室では住民と利用者が会話をを楽しむ場面もみられる。職員手作りの食事は地域住民からの差し入れもあり、栄養満点の食事を提供している。事業所独自のYケアは、利用者の思いを最大限尊重した取り組みとして実践に繋げ、殆どの利用者が看取りを希望している。技能実習生の受け入れも積極的に行い、利用者と一緒に作品を作ったり、食事の味付けを教わるなど利用者とのコミュニケーションを図っている。利用者の思いを聞きながら個別ケアに取り組む笑顔溢れる事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を職員一人一人が自覚し、日々のケアを実践し、お互いが指摘しあえる環境を作っている。	理念は玄関の目につく場所に掲示してあり、法人提供の個人ファイルでいつでも確認ができる。新人職員研修において、理念を学びながら、その人に合った生活を見つけ出し、利用者の笑顔と満足度を高められるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症対策を継続しながら、御家族以外の方でも面会を可能とし可能な限り、疎遠とならないような取り組みを行なっている。	地域の美化活動には職員が参加している。年末には子どもたちが事業所の窓ふきに訪れており、交流を深めている。併設歯科の待合室では、利用者が地域住民と会話を楽しむことができる。事業所の特性を活かし、介護等の相談窓口としての一役を担っている。	コロナ禍前は、積極的にボランティアの受入れや地域住民との交流を図っていたが、現在も、まだ難しい状況にある。今後は感染症対策を行いながら、ボランティアの受け入れ等、工夫しながらの地域交流に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症対策を継続しながら、2か月に1度の開催を行っており、利用者代表から施設での生活の様子や、感じている事を本人様から参加者へ直接話をさせていただいている。	運営推進会議を定期的開催し、行政や家族、利用者、地域代表が参加している。サービス提供状況を説明後、要望や助言を受け、忌憚のない話し合いができています。出席できなかった家族へは、便りなどと一緒議事録を送付している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールを使って日頃から情報の交換を行っている。また、運営推進会議にも参加してもらい、情報交換を行っている。	行政職員の運営推進会議の参加も得ており、常に行政担当者と相談しながら、信頼関係を構築している。技能実習生の受入れも積極的に行っており、就職後の技能実習生の交流会も市からのメールで情報を得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の指針周知や研修を行い、職員1人1人が身体拘束をしないケアの実現に向けて声を掛け合いながら、また、毎月のモニタリング等に反映している。	身体拘束等適正化検討委員会を定期的開催し、身体拘束をしないケアを実践している。集合研修が難しいため、空いた時間に受けることができる動画視聴を活用した研修を行っている。研修後のレポート提出で情報を共有し、周知徹底を図っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、職員の意識向上と共に常に指摘しあえる環境作りを行っている。	虐待防止委員会を開催し、研修では虐待防止に関する法律についても学んでいる。技能実習生にも理解しやすいように、それぞれの言語に直した資料を渡している。不適切ケアを見逃すことなく、常に意識を高め、全職員で虐待防止に努めている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束・虐待防止の委員会研修や会議の場で制度や内容について周知する機会を設けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的な説明に留まらず、利用者・家族の理解度を図り、契約を進めるよう心掛けている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートボックスの設置・運営推進審会議への参加案内等で、利用者・家族の意見を聞ける場所を設けている。	コロナ禍以降、面会制限を設けていたが、現在は居室での面会を可能としている。利用者家族等アンケートには「本人のことをよく考え対応してくれる」とある。アンケートボックスも設置しているが、直接、家族から意見を聞ける信頼関係ができています。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署のリーダーが集まり、リーダー会議の場でそれぞれの意見を交わし、意見を求める場を作り、特定技能外国人には担当者から意見を汲み取るようにしている。	ユニット会議で、職員の意見を聞く場を設けている。また、管理者や管理者代理は、常に職員が意見や相談しやすい関係作りを心がけている。職員の意見を尊重し、運営に役立てている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員への声掛けや、相談できる体制を作り、資格取得への協力体制が出来ている。(業務内に参加が出来る)	各種休暇の取得や時短勤務の希望にも対応し、働きやすい環境整備がされている。技能実習生と職員2名の聞き取りを行ったが、職場環境は非常に良好であるとの回答を得た。就業規程など、常に職員が閲覧できるよう、職員事務室に掲示している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への積極的な研修参加の取り組みと共に、動画視聴など、個人の隙間時間を活用した研修も取り組んでいる。	職員研修計画に基づき、積極的な研修体制を構築している。外部研修、復命、資料の閲覧などで学びを深め、技能実習生にはラインワークスによる研修を実施している。研修費用や携帯を使う費用についても、法人が負担し育成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域で開催される講習会などには、積極的に参加し交流の機会がある。また、特定技能外国人には日本語サロンの参加も積極的に勧めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立度の低下を防ぐためにも、出来ることの継続を支えながら傾聴や時にはアドバイザーになっていただき共同生活の関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り、自室を自宅に近い環境で過ごしていただき、職員は想像豊かに意向の把握に努めながら、代替え等可能な限り自己実現の支援を行っている。	利用者との会話を中心にコミュニケーションを図り、定期的なカンファレンスを実施しながら支援に繋げている。食事摂取の支援方法や口腔ケア時に気付いたことなど、利用者のニーズや新しい情報については、タブレットを活用し職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族へは毎月のお手紙で状況の報告や、相談を行い、常に職員間・他職種との連携を図り、介護計画に反映している。	一人ひとりの思いを言葉や行動から推測し、検討を重ねて本人の意向を確認している。利用者が心地よい暮らし方が出来るよう、関係機関や家族と連携し、利用者のニーズに即した介護計画作りを行なっている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングは、変化等あった場合その日その日で記録をし、職員間で情報を共有できるように申し送りをし、介護計画の見直しを行っている。	利用者の行動や言動などに変化があった時は、タブレットに記録として残し、ミーティングで引継ぎ共有を図っている。必要に応じて計画の見直しをするなど、利用者が安心して生活できるよう支援している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴・受容を職員は心がけ、利用者個々のニーズを把握し、可能な限り自己実現に向けた対応を心掛けている。	併設する特養の友人に会いに行き、会話を楽しむ利用者もある。また、選挙の期日前投票をサポートするなど、利用者の希望や様々なニーズにその都度対応しながら、柔軟な支援に取り組んでいる。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方からの食材の差し入れやがあり、調理方法を相談したりして、地域性を活かしながらコミュニケーションが取れたり生き甲斐を感じて頂けている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医以外を希望される方には、ご家族の協力を得て受診を継続されてみえる。また、必要に応じて、かかりつけ医への情報提供も行っている。	利用者と家族の意向をもとに、かかりつけ医の選択を可能としている。協力医は月に一度の往診があり、看護師や歯科衛生士と連携を図っている。また、眠りスキャンを活用した健康管理も行っている。受診の際は、原則家族にて対応を依頼しているが、職員同行も送迎は無料である。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	県立下呂温泉病院が協力機関となっており、入院から退院までを連絡を取り合い退院時には病院にてカンファレンスを開催し、スムーズに施設の生活に移行できるように対応している。また、別の病院の場合でも同様に対応を行いたい。	入院時は情報提供書を提出し、協力病院と連携しながら支援を行っている。入院中は利用者に面会に行ったり、電話で家族と情報共有している。カンファレンスに参加し、退院後も安心して生活ができるように情報収集に努め体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期前の段階から、Yケアと言って自施設独自の取り組みがあり終末期に向けた事前の本人・家族に対して主治医との話し合いが出来る時間を設けている。	契約時に重度化や終末期の方針を説明し、利用者と家族の思いを聴いている。事業所独自のYケアの取り組みもあり、殆どの利用者が看取りを希望している。看取った後は利用者と共に皆で見送っている。カンファレンスや看取り研修、職員のメンタルケアも行なっている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会が年2回あり、1回は必ず講習を受けられるように対策している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回は行っており、全職員が1度は参加し講習を受けている。また、災害対策として非常発電の設置、備蓄品の準備もある。	消防署の協力のもと、夜間を想定した避難訓練を実施している。BCPが策定されており、職員研修計画もある。事業所は福祉避難所としての協定を結んでおり、地域住民との協力体制を築いている。非常発電機や備蓄品は2日分備えている。	災害時の備えはあるが、十分とは言えない部分がある。利用者用ヘルメットや防災頭巾の確保、避難袋の確認等、いつ起こるかかわからない災害に備え、今一度確認の徹底に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止の研修等尊厳についての周知や、利用者個々の状況に合わせた配慮を行い、過度な介入などを避ける工夫を行っている。	常に、一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけを行っている。居室は格子戸と室内扉があり、中が見えにくい構造でプライバシーの確保ができています。トイレや入浴介助は、同性介助の希望にも応えている。不適切ケアチェックシートを活用し、振り返りを行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的なコミュニケーションの中で、利用者の思いなど傾聴し、情報を共有し自己決定支援へ繋げている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の過ごし方は、利用者の気持ちを傾聴し食事・入浴・排泄・過ごす場所等可能な限り利用者の希望に沿った対応を柔軟に行っており、例えば入浴日を次の日に変更する・更衣で対応する等の対応を行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の拒否などなければ、食材加工などを行っていただき、例えば、大根を使った料理を聞いて調理するなどの取り組みを行っている。また、毎食後、可能な方には食器を拭いて頂いたり、おしぼりをたたんで頂いている。	職員が、栄養バランスの取れた食事を手作りしている。また、地域住民からの野菜や鮎の差し入れがあり、季節感を感じられるよう工夫している。朝食はパンかご飯を選べたり、ホットプレートで、お好み焼きや焼きそば等を皆で作れ、楽しむこともある。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については、利用者個々の習慣に添った提供を行っており、栄養士・嘱託医等等への相談も適宜行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士が定期的にケアに入り状態観察・ケアを行っており、歯科受診に必要な場合は繋げている。また、セルフでのケアが不十分な方については介助を行っている。	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの状態や能力に合わせた声掛けや介助を行っている。歯科医師や歯科衛生士と連携し、指導を仰ぎながら支援に繋げている。歯ブラシや義歯の消毒も適切に行っている。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	過度なおむつ使用を避けており、適切な排泄用品を選定し、排泄パターンの把握に努め、自尊心を損なわないよう支援している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間や、順番については適時利用者の希望を聞き、可能な限り希望に沿った時間で入浴して頂いている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間・昼寝・休む場所等、利用者個々の習慣に応じた対応を行っており、家庭生活に近い環境を心掛けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の病名・既往歴と、薬の内容を把握し、看護師の申し送りなどもあり全員が確認している。	服薬支援時は、必ず日付や名前を利用者と確認し、誤薬を防いでいる。薬が変わった際に変化が見られた時は看護師と連携して記録を取り、職員間で情報の共有を図っている。薬やお薬手帳は鍵のかかる保管庫で管理している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞たたみ・清掃・調理・食後の片付け・洗濯物たたみ等、また、植物を育てたり、日々のレクリエーションの参加を利用者個々で出来る事への参加を促し、張り合いや、楽しみのある生活を支援している。	利用者一人ひとりが、楽しみながら過ごせる方法を見つけ、支援を行っている。技能実習生と一緒に玄関先の掃除、花壇の水やり、作品作りを行う人もある。食事前のお手拭きを1枚ずつ畳むなど、役割を持てるよう声かけしながら、張り合いのある生活に繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、施設周辺の散策や、家族の協力にて可能な限り希望に沿った外出支援を行っている。	コロナ禍から、買い物や外出などの遠出は難しい。近くの公園で花見をしたり、実習生との散歩、山菜を取って食材にするなど、外出支援に努めている。また、隣接する特養にも出かけ、利用者同士の交流も支援している。	

岐阜県 馬瀬グループホームいきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には家族・事務での管理であるが、本人の希望がある場合家族と相談の上、渡している。職員へは自立支援の大切さと共に周知している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の対応や、希望時の対応は適時行っており、手紙を楽しまれる利用者には希望があれば協力している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、清潔・安全を心掛け、毎月変わる掲示物は季節感を感じられ、家庭生活における音や、匂いと同様な刺激は居心地の良い空間を提供している。	リビングや廊下には畳敷きの休憩場所が点在し、掃除の行き届いた清潔感ある空間となっている。手作りの作品を飾り季節感も感じられるよう工夫している。信楽焼の浴槽もあり、介護施設を感じさせない雰囲気がある。併設の特養とは回廊式で繋がっており、施設内で散歩を楽しむことができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースや、ソファー等利用に制限はなく、思い思いの場所や、人とのかわりに柔軟に対応し、個々の思いに添った居場所を提供している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の設えは、個々の利用者の好みの状態に使っていただき、居心地のいい空間となる様工夫し、また、本人・家族と相談の上行っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハット等の危険予知訓練を行っており、安全に配慮した環境対策を行っており、生活に必要な場所には分かり易いように張り紙などを使い工夫している。		